

令和7年度  
第2回恵庭市アイヌ施策  
推進委員会

会議資料

令和8年3月26日  
恵庭市教育委員会

# 令和 7 年度事業

## 令和7年度アイヌ政策推進交付金事業について

### 1. 事業実施の結果（実績）

事業名	実施内容	結果
アイヌ文化マスター育成事業	全8回の講座を実施	実施完了（5名参加）
アイヌ文化学習見学会事業	全1回の見学会を実施	実施完了（28名参加）
アイヌ文化講演会事業	全1回の講演会の実施	実施完了（55名参加）
ムックリ製作体験事業	全1回の体験事業を実施	実施完了（15名参加）

(1) 次頁の3. 令和7年度事業の概要(1)～(4)の事業は恵庭市アイヌ施策推進委員の皆様や参加者の協力のもと、全て終えることができました。詳細は次頁以降を参照。

(2) 事業費は事業内容に若干の変更が生じたため以下のとおり減額となったことから、令和8年2月13日付恵教郷第182号で内閣総理大臣宛に「令和7年度アイヌ政策推進交付金交付決定変更申請書」を提出しました。

### 2. 事業費

●事業費（当初） 1,307千円

うちアイヌ政策推進交付金の額 1,045千円

- ・コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業、アイヌ文化学習見学会事業、アイヌ文化講演会事業、ムックリ製作体験事業） 1,307千円

●事業費（実績） 1,218千円（89千円の減額）

うちアイヌ政策推進交付金の額 973千円（72千円の減額）

- ・コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業、アイヌ文化学習見学会事業、アイヌ文化講演会事業、ムックリ製作体験事業） 1,218千円

## 【参考】

### 3. 令和7年度事業計画の概要

(1) アイヌ文化マスター育成事業・・・アイヌ文化を学ぶ意欲がある市内に在住する小中学生6名を公募し、全8回の講座を実施する。期間は令和7年6月から令和8年2月までとし、アイヌ文化の講座や国立アイヌ民族博物館（白老町）などの見学を行う。また、1泊2日で網走市等や平取町等で研修を行い、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。

(2) アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで白老町（国立アイヌ民族博物館）に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

(3) アイヌ文化講演会事業・・・アイヌ文化を広く市民の皆様に理解していただくため、市民会館で講演会を行う。3回目となる令和7年度も本委員会委員長の内田様にご講演をいただく。

(4) ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者にムックリ製作体験をしてもらう。ムックリ製作を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会の実現を目指す。2回目となる今年度は、恵庭市郷土資料館主催のカリンバまつりと同日に実施する（7月26日土曜日）。

## 令和7年度各事業の報告と検証について

### 1. アイヌ文化マスター育成事業

#### ●実施状況

- ・6月29日 第1回「アイヌ文化の基礎知識」  
※小学生5名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。郷土資料館研修室で、当委員会の委員長でもある国立アイヌ民族博物館内田副館長の講座を実施した。
  
- ・7月27日 第2回「アイヌ文化の基礎知識」  
※小学生5名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。郷土資料館研修室で、当館の長町学芸員が講座を実施し、郷土資料館内のアイヌ展示も見学した。
  
- ・9月28日 第3回「アイヌ語の学習」  
\*小学生5名参加。郷土資料館研修室において、アイヌ語話者で恵庭市在住の池田氏によるアイヌ語の講座を実施した。
  
- ・10月18日 第4回「北見市常呂・網走市におけるアイヌ文化関連施設の見学等」  
19日 \*小学生5名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。北見市のトコロチャシ跡遺跡群や網走市にある道立北方民族博物館等を見学し、各施設の学芸員に解説をいただいた。
  
- ・11月8日 第5回「新ひだか町・平取町におけるアイヌ文化関連施設の見学等」  
9日 \*小学生4名(1名病欠)、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。新ひだか町の史跡シベチャリチャシ跡や平取町立二風谷アイヌ文化博物館等を見学し、各施設の学芸員に解説をいただいた。
  
- ・12月14日 第6回「イナウ製作見学とムックリ製作体験」  
※小学生5名参加。郷土資料館研修室で恵庭アイヌ協会藤原会長による体験講座。イナウ製作の実演見学、製作体験とムックリ作り体験、演奏体験を行った。
  
- ・1月18日 第7回「白老町国立アイヌ民族博物館の見学等」  
\*小学生5名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。国立アイヌ民族博物館内田副館長にご解説いただき、伝統的コタンや伝統芸能上演鑑賞、常設展示室等の見学を行った。
  
- ・2月1日 第8回講話「アイヌ民族について」・「報告会」・「修了式」  
\*小学生5名参加。郷土資料館研修室で恵庭アイヌ協会藤原会長による講話をいただいた。その後参加者が本事業の感想を発表する報告会を開催。最後に修了証書を授与した。



第4回「北見市常呂・網走市におけるアイヌ文化関連施設の見学等」。道立北方民族博物館の学芸員による解説



第6回「イナウ製作見学とムックリ製作体験」。恵庭アイヌ協会藤原会長によるイナウ製作の実演

## 2. アイヌ文化学習見学会事業

### ●実施状況

8月3日に28名の参加者（一般市民が対象）を迎え、国立アイヌ民族博物館の見学会を実施した。国立アイヌ民族博物館内田副館長にアテンドしていただいた。



常設展示室の見学



丸木舟製作の見学

### 3. アイヌ文化講演会事業

#### ●実施状況

11月30日に恵庭市民会館2階大会議室においてアイヌ文化講演会を開催し、55名が参加した。講師は国立アイヌ民族博物館副館長である内田委員長に依頼し、「アイヌ文化における自然資源の利用と食文化」という内容でご講演いただいた。



講演会の様子①



講演会の様子②

### 4. ムックリ製作体験事業

#### ●実施状況

7月26日に郷土資料館研修室において、ムックリ製作体験を実施し、15名が参加した。講師は恵庭アイヌ協会藤原会長にお願いした。



事業の様子①



事業の様子②

## 令和7年度恵庭市アイヌ施策推進地域計画のKPI（重要業績評価指標） の達成状況の検証について

### 1. 恵庭市アイヌ施策推進地域計画のKPI

\*以下、地域計画から抜粋

#### 3 アイヌ施策推進地域計画の目標

##### (3) 数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度 (中間目標)	70名
令和9年度	70名
令和10年度 (最終目標)	70名

### 2. 令和7年度のKPI達成状況の検討

令和7年度のKPIである「全事業の総参加人数（目標70名）」ですが、今回の総参加人数は103名でKPIを達成しました。（参加人数の内訳、アイヌ文化マスター育成事業：5名、アイヌ文化学習見学会事業：28名、アイヌ文化講演会事業：55名、ムックリ製作体験事業：15名）

# R7年度アイヌ文化マスター育成事業参加者 アンケート集計

質問① 年齢層についてお答えください。(該当する項目に✓を付けて下さい。)			
	小学4年生	小学5年生	小学6年生
	3名	1名	1名
回答者数	5名		

質問② 全8回を通しての満足度をお答えください。(該当する項目に✓をつけて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> とても満足 5名	<input type="checkbox"/> やや満足 0名	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない 0名
	<input type="checkbox"/> やや不満 0名	<input type="checkbox"/> とても不満 0名	<input type="checkbox"/> その他( ) 0名

質問③ 全8回の中で最も印象に残ったのは第何回ですか。また印象に残った理由は何ですか。	
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回 宿泊も遠くて常呂のアイヌ文化の事と網走監獄の体験が印象的だった</li> <li>・第7回 ウポポイで伝統芸能を実際に見れたし、アイヌ語が第一言語となっている場所に行くのはとても刺激になりました。</li> <li>・第7回 ウポポイではムックリやトンコリがとてもきれいな音だったのと、つるぎのまいでは刀がチャキとなってたのがすごいと思いました。</li> <li>・第5回 平取の博物館で本物の罌を自分でしかけるのが楽しかったからです。</li> <li>・第5回 自分でコースターを作ったのが楽しかったから。</li> </ul>

質問④ アイヌ文化マスター育成事業の講座について今回学習した内容以外で学びたい事がありますか。	
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の都道府県の文化</li> <li>・中山久蔵さんのことをもっと深く知りたい。沖縄の文化 踊りを教えて欲しい</li> <li>・アイヌの歴史に大きく関わった場所にもっと行って深く知りたいです。</li> <li>・和人との戦いについてももう少し学びたい。</li> </ul>

質問⑤ 全8回の講座を通じて、アイヌ文化についての正しい知識を得ることはできましたか。(該当する項目に✓を付けて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> とても得られた 5名	<input type="checkbox"/> やや得られた 0名	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない 0名
	<input type="checkbox"/> あまり得られなかった 0名	<input type="checkbox"/> 全く得られなかった 0名	<input type="checkbox"/> その他( ) 0名

質問⑥ 今後もアイヌ文化マスター育成事業に参加したいと思いませんか。(該当する項目に✓を付けて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> ぜひ参加したい 5名	<input type="checkbox"/> タイミングが合えば参加したい 0名	<input type="checkbox"/> 内容による 0名
	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない 0名	<input type="checkbox"/> したくない 0名	<input type="checkbox"/> その他( ) 0名

質問⑦ その他ご意見等がありましたらお聞かせください。	
回答	・もっと回数を増やして欲しい。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

恵庭市郷土資料館

## 令和7年度アイヌ文化学習見学会アンケート集計表

Q1-1 性別

男	女	未回答	アンケート回答者数
8	13	3	24

Q1-2 年齢

10代まで	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答
1	1	1	0	1	7	10	2	1

Q2 見学会をどこでお知りになりましたか？

広報	ちゃんと	HP	口コミ	その他
16	6	1	4	1 (資料館だより 1)

※複数回答有り

Q3 見学会に対する満足度を教えてください。

※満足5点 やや満足4点 どちらとも言えない3点 やや不満2点 不満1点

(1) ウポポイ

平均点 4.7 / 5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
16	8	0	0	0

(5) 全体的に

平均点 4.7 / 5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
17	7	0	0	0

Q4 Q3の理由

- ・ 特別展も他体験交流ホール催し (イメル) シノッチセでは木の劇場等見られ良かった。
- ・ 初めての見学だったので、見るものすべてが勉強にもなり楽しかった。
- ・ 自由時間が2時間半もあり、自分自身が見たかった所や体験したいことが出来、満足でした。
- ・ 適度な時間で過不足なく施設を見学することができました。
- ・ 初ウポポイでした。行きたいなーと思っはいたのですが、なかなか機会が無く、参加でき良かったです。
- ・ 副館長さんの説明もうちょっとサクサクと進めてほしかった。
- ・ 国の施設だからか、アイヌが長年にわたって差別されていることを国民に知らせてほしい。
- ・ 時間が足りない。アイヌ文化を沢山知りたいと思った
- ・ 特別展を見学する時間が足りなかったの
- ・ 副館長さんの解説もあって、一人で見て回るより、ずっと良く理解できました。ウポポイ開館5周年を記念しての特別展示も良かったです。海外のコレクターによる収集や、万博での展示、現在活躍されている方々など新たな発見がありました。大河ドラマ「べらぼう」でもエゾと松前家など興味や関心が広がりました!!

裏面につづく

- ・新しいことたくさん勉強できて楽しかった。
- ・ウィーン万国博の展示品が大変貴重だった。
- ・もっとゆっくり見たかった。キレイな所が沢山あったし、新たな発見もあり楽しかった。
- ・初めてのウポポイ、秋に又来てみたいと思いました。アイヌは北海道の文化ですから、もっといろいろ知りたいと思っています。副館長さんの案内、お話、とてもよかったです。
- ・動物とアイヌの関係についてもっと知りたいと思ったが、文献資料も少ないのでむずかしいのかもしれない。
- ・明治時代のウィーンでの博覧会展示内容に、興味があった。
- ・広いのに驚いた
- ・トイレで少し汚れているところがあった。
- ・くわしく知る事ができた。
- ・体験型（ムックリや刺しゅう）も出来れば良いと思います。
- ・ゆっくりと見学出来て良かったです。
- ・今回も含め三回の来館となりますので満足しています。

Q5 次回もアイヌ文化学習見学会に参加したいと思いますか。

ぜひ参加したい	タイミングが合えば参加したい	イベントの内容による	どちらとも言えない	したくない
7	14	0	0	0

Q6 今後のアイヌ文化学習見学会で行きたい施設など

- ・平取博物館（アイヌ）
- ・今日作っていた舟の進水式を見たいと思います。
- ・旭川のカムイコタンの見学も参加したが資料館でも計画があればどこへでも行きたい。
- ・札幌交流センター 平取二風谷
- ・アイヌではないが北海道農業の発達の岩見沢から南幌までの水路の見学、帯広地区、二風谷地区毎の開催
- ・北海道大学総合博物館
- ・阿寒シアターを見学したいです。（1泊しないとだめですね。）
- ・二風谷など日高方面の施設見学を希望します。（行ったことがないので）
- ・子供達と一緒に遊んだり、子供達から教えてもらったり、何か絵本を読みあったり私は今背がかなり低くなり子供にもどっているのです。
- ・北海道博物館
- ・平取のアイヌ文化資料館は見ごたえがあった。
- ・おととしの旭川へ、もう一度行きたい。
- ・札幌、平取二風谷
- ・平取方面
- ・旭川方面

# 第3回アイヌ文化講演会アンケート 令和7年11月30日(日)

テーマ	アイヌ文化における 自然資源の利用と食文化	講師	国立アイヌ民族博物館 副館長 内田 祐一 氏
-----	--------------------------	----	---------------------------

Q1 年齢層についてお答えください。										
	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	80歳以上	未回答	
人数	1	3	1	2	7	11	14	1		
									回答者数	40

Q2 どこからお越しになりましたか。(お住まいの地域の該当する項目に✓をつけて下さい。)	
回答	<input type="checkbox"/> 恵庭市内 31名 <input type="checkbox"/> その他 9名(千歳市 2名 札幌市 4名 北広島市 2名 岩見沢市 1名)

Q3 本日の講座について、ご感想をお聞かせください。(該当する項目に✓を付けて下さい。)					
回答	よく理解できた(5点)	理解できた(4点)	普通(3点)	あまり理解できなかった(2点)	理解できなかった(1点)
	23名	12名	1名	2名	0名
	平均点	4.5点	回答者38名		

Q4 本日の講演会の中で、印象に残ったことは何ですか。	
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べられる食材・加工方法・調理方法など 参考になった。</li> <li>・松浦さんのエピソードなど</li> <li>・講師が実際にアイヌの食物を作って楽しんでいるところ</li> <li>・山菜について</li> <li>・オオウバユリのデンブンのつくり方</li> <li>・トゥレップンが手に持っているドーナツ状の物の正体がよくわかりました。ありがとうございます！内田氏がオオウバユリの種の数を書いた件について…</li> <li>・恵庭の当時の暮らしが武四郎の記録から知ることができた。</li> <li>・松浦武四郎の話</li> <li>・食糧難になったときの知識が増えました。</li> <li>・オオウバユリがどのようにして保存食になるのか過程がわかってよかった。(ウポポイに行っても具体的にわからなかったの)</li> <li>・食料保存の知恵が大変、ためになりました。</li> <li>・先生が実際に調理を再現する研究をされていること</li> <li>・保存食の作り方</li> <li>・トゥレップのデンブンの採集方法について。ムニニモについて</li> <li>・武四郎さんの記述が幅広い</li> <li>・アイヌの人達が恵庭で畑作を行っていたことに驚いた。様々な調理方法があり試してみたくなった。</li> <li>・ギョウジャンニク(シロウシ)の調理の仕方がよくわからなかったのですが、来年作ってみます</li> <li>・現存する口伝としてのアイヌ民族の食文化に対し、文献側からのアプローチは魅力的なテーマをより立体的に理解できた。</li> <li>・キツネを食材としていたことに驚きました。</li> <li>・オオウバユリですがドライフラワーや枝をふって遊んだりするものでした。若葉の下ユリ根として食す。大変おもしろく作ってみたいです。</li> <li>・オハウとサヨなど、白老のウポポイのレストランで食べました。おいしかったし、食生活が身近に感じられました。</li> <li>・ギョウジャンニクを干して保存する方法</li> <li>・アイヌの人達の食事は作るのに手間がかかったろうに、ずいぶん多彩なものを食していたのだと感心した。</li> <li>・チボロシトやムニニモト等、実際の調理法をご紹介いただいたこと。試してみたくまりました。</li> <li>・アイヌの方の食文化を具体的に知ることが出来て良かった</li> <li>・アイヌの食文化の多様性</li> <li>・食べる際にいろんな工夫をしているが、その知恵は昔から伝わっていたものなのか。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ人の生活でたばこや酒を飲んでいたり外国と交流があったという事がわかったことが印象に残りました。</li> <li>・内田さん、いろいろ実験されているんだなあと感心しました。塩蔵の話(文献はない)ビタミンとの関係興味深かったです。タバコとお酒の話は初耳でした。ありがとうございます</li> <li>・チタタブで鮭の尾など今は食べない所までチタタブしていたのが印象に残りました。</li> <li>・楽しい料理教室(オオバユリ)・動物・植物からよくこんなに食材を見つけたもんだ。自然の恵みと感謝のこころ</li> <li>・植物の利用方法等くわしく聞くことができ勉強になりました。</li> <li>・オオバユリからデンプンを取る方法が地域によって異なるが、最終的なデンプンの取得率は同等量である点が興味深く感じた。</li> <li>・自分で作って食べたのはすごいネ～</li> </ul>
--

Q5 本日の講演会を何でお知りになりましたか。							
	広報えにわ	ちゃんと	ポスター	LINE	ホームページ	人から聞いた	その他
人数	10	6	14	5	3	7	3名(ウポポイ 1名 はなふるチラシ 1名 回答無し 1名)

Q6 次回もアイヌ文化講演会に出席したいと思いますか？					
	ぜひ参加したい	タイミングが合えば参加したい	内容による	どちらとも言えない	したくない
人数	18	17	5		

Q7 今後ご希望のテーマや、ご意見等がありましたらお聞かせください。	
回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌと和人ととの交易</li> <li>・武四郎についてももっと聞きたい！</li> <li>・近代アイヌの歴史など</li> <li>・猟友会について話を聞いてみたい。</li> <li>・病気がしたらどうするのか？など</li> <li>・現在、恵庭・千歳地区のアイヌ民族の現状について</li> <li>・また内田様のお話がお聞きしたいです。初めて参加しました。また出席したいと思います。有難うございました。</li> <li>・今回のテーマにあわせて家族(世帯)とジェンダー視点をとりいれた内容</li> <li>・食生活は関心があったので、楽しめた時間でした。ありがとうございました。</li> <li>・物語について教えて欲しいです。</li> <li>・恵庭の歴史、自然に関するテーマを継続的にお願いします。</li> <li>・「鶴はこわい？」伝承されているいろいろな話が聞いてみたいです。</li> <li>・櫛木貴美子さんを講師に今日のアイヌの食文化の各論として料理体験を希望。</li> <li>・映像等があれば尚良かったかなと思います。</li> <li>・初めて参加したのでアイヌの歴史・文化・エゾ地のこともっと知りたくくなりました。</li> <li>・アイヌ民族の衣生活に関する内容(刺しゅうとか文様、伝統の織物など)のお話しがききたいです。</li> <li>・講師の話し方が聞きやすかった。ごころうさま。</li> <li>・既出でしたらすみません。ヒグマとの共存(?)についてをテーマにさせていただきたいです。</li> <li>・アイヌ社会(部落)の統治機構</li> <li>・食はわかったので衣のこと、刺しゅうなどを知りたい。</li> <li>・近代の歴史のテーマがいいです。</li> <li>・和人の案内役としてのアイヌの方のかかわり方</li> <li>・アイヌの方達の通った道について</li> <li>・恵庭市内に於けるアイヌの歴史(居住地・仕事・交流・生活・名前とか)</li> </ul>

# 令和 8 年度事業

# 令和8年度恵庭市アイヌ施策推進地域計画の軽微な変更について

## 1. 主な変更内容は以下のとおり

- ・「アイヌ文化保存・継承環境整備事業」を新たに実施することにした。
- ・「アイヌ文化講演会事業」を取りやめることとした。その結果、K P Iの数値目標「全事業の総参加人数」を70名から40名とした

\*地域計画より抜粋

### 新 旧 対 照 表

(下線部は変更部分)

恵庭市アイヌ施策推進地域計画

令和6年3月18日認定(令和7年3月19日変更認定 )

変更後	変更前
1～2 (略)	1～2 (略)
<p>3 (1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p> <p>(略)</p> <p>恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和7年12月現在5世帯と減少が著しい。</p> <p>(略)</p> <p>このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ(岩屋での祈りの儀式)を開催し、また令和5年からは恵庭市埋蔵文化財整理室でカムイノミ・イチャルパを実施し、アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。</p> <p>(略)</p> <p>さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。</p> <p>(略)</p> <p>*アイヌ関連団体</p>	<p>3 (1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p> <p>(略)</p> <p>恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和5年12月現在7世帯と減少が著しい。</p> <p>(略)</p> <p>このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ(岩屋での祈りの儀式)を開催し、また令和5年10月には恵庭市埋蔵文化財整理室でカムイノミ・イチャルパを実施し、アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。</p> <p>(略)</p> <p>さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。<u>令和5年からは市民に向けたさらなる学習機会を提供するためにアイヌ文化講演会も開催している。</u>このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。</p> <p>(略)</p> <p>*アイヌ関連団体</p>

・恵庭アイヌ協会（設立：昭和50年6月、代表者：  
会長 藤原 顕達氏、会員数：5世帯）  
（略）

3（2）（略）

3（3）数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度	<u>40名</u>
令和9年度	<u>40名</u>
令和10年度	<u>40名</u>

4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項

4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

■アイヌ文化保存・継承環境整備事業・・・恵庭アイヌ協会が行う「カムイノミ・イチャルバ（神への祈りと先祖供養の儀式）」などのアイヌ民族伝統儀式で使用する先祖供養等儀式用具を作製する。

4 4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。また有識者委員会を定期的に開催し、事業の検討や評価などを行う。

・恵庭アイヌ協会（設立：昭和50年6月、代表者：  
会長 藤原 顕達氏、会員数：7世帯）  
（略）

3（2）（略）

3（3）数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度	<u>70名</u>
令和9年度	<u>70名</u>
令和10年度	<u>70名</u>

4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項

4 4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。また有識者委員会を定期的に開催し、事業の検討や評価などを行う。

■アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などのアイヌ文化関連施設に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

■ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

5 (略)

6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費

(1) 文化振興事業

事業内容：4-1と同じ

事業期間：令和8年度～令和8年度

事業費：280千円

(3) コミュニティ活動支援事業

事業内容：4-4と同じ

事業期間：令和6年度～令和10年度

事業費：8,637千円

7 アイヌ施策推進地域計画が法第10条第9項各号に掲げる基準に適合すると認められる理由

(1) 「アイヌ施策の意義及び目標」との適合性(第1号基準)

「アイヌ施策の意義及び目標」に適合したアイヌ施策の推進を図るために必要な事業の記載(第2号基準)

■4-1に記載する事業は、恵庭のアイヌ民族の精神文化、伝統儀式を後世に伝え残すとともに、地域のアイヌ民族の伝統文化の継承と先住民族である自負と尊厳の形成に寄与する。伝統儀式に参列した一般の方々などがアイヌ民族の伝統文化を理解し、尊重する共生社

■アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などのアイヌ文化関連施設に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

■アイヌ文化講演会事業・・・アイヌの歴史や文化に関する市民の理解促進を図るため、アイヌ文化講演会を開催する。

■ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

5 (略)

6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費

(3) コミュニティ活動支援事業

事業内容：4-4と同じ

事業期間：令和6年度～令和10年度

事業費：6,907千円

7 アイヌ施策推進地域計画が法第10条第9項各号に掲げる基準に適合すると認められる理由

(1) 「アイヌ施策の意義及び目標」との適合性(第1号基準)

「アイヌ施策の意義及び目標」に適合したアイヌ施策の推進を図るために必要な事業の記載(第2号基準)

会を築くことに役立つことが期待される。

■4-4に記載する事業は、道内のアイヌ文化を学び、海外の多文化共生社会づくりの先進事例を視察し、活動環境の改善を図ることによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図るものであり、多文化共生社会の実現に寄与するものである。

7 (2) ~ (3) (略)

8 ~ 10 (略)

■4-4に記載する事業は、道内のアイヌ文化を学び、海外の多文化共生社会づくりの先進事例を視察し、活動環境の改善を図ることによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図るものであり、多文化共生社会の実現に寄与するものである。

7 (2) ~ (3) (略)

8 ~ 10 (略)

## アイヌ施策推進地域計画

- 1 アイヌ施策推進地域計画の名称  
恵庭市アイヌ施策推進地域計画
- 2 アイヌ施策推進地域計画の作成主体の名称  
北海道恵庭市
- 3 アイヌ施策推進地域計画の目標

### (1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題

恵庭市においては、市の名称である「恵庭」、市内の中心部を流れる「漁（いざり）」川などアイヌ語由来の地名が数多く残されている。明治後期から大正時代にかけては旧カリンバ川中流域の恵庭・千歳地区にまたがって「カマカコタン」があり、歴史的にアイヌ文化等に関わりが深い。発掘調査でも市内各地の遺跡からアイヌが暮らしていた痕跡が確認されている。中でも旧カリンバ川上流右岸の約1kmの範囲からは推定300～500年前の建物跡が100軒以上見つかっており「カリンバコタン」とも呼ぶべき集落が連綿と長期間に渡り営まれたと考えられる。しかし、残念なことに伝承の記録等は残っていない。チャシ跡に関しては、令和5年時点で茂漁チャシ跡、島松Bチャシ跡、島松Cチャシ跡、カリンバチャシ跡の4か所が確認されている。カリンバチャシ跡は部分的に発掘調査が行われており、アイヌ文化期の溝状遺構と柱穴列が確認されている。恵庭市西側の山岳地帯にはシラッチセ（岩屋）と呼ばれるアイヌが熊猟をした際の拠点が3か所現存する。本流の岩屋、三股の岩屋、金山沢の岩屋で、いずれも溶結凝灰岩が南側にひさし状にせり出した地形で、日当たりが良く雨や雪を避けられる場所を利用している。アイヌはここに設置した仮小屋に寝泊まりし、冬眠明けの熊を狙って猟を行った。捕獲した熊は山で解体し、頭骨を岩屋の祭壇に祀ってオプニレ（熊送り）を行った。現存する岩屋が使われた記録が残るのは昭和時代以降だが、かなり昔から岩屋を拠点とする熊猟がアイヌにより行われていたと考えられる。

恵庭市には昭和50年に恵庭アイヌ協会（旧社団法人北海道ウタリ協会恵庭支部）が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図ってきた。恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和7年12月現在5世帯と減少が著しい。またアイヌにルーツを持ちながらも自ら「アイヌ民族」を表明しない人々や自覚しない人々（サイレントアイヌ）もいるものと推察される。このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ（岩屋での祈りの儀式）を開催し、また令和5年からは恵庭市埋蔵文化財整理室でカムイノミ・イチャルパを実施し、

アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。

恵庭市郷土資料館では、平成28年に企画展「モノから見たアイヌ文化」を開催し、翌29年には（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構（当時）の助成金を利用して常設展示室第3部「アイヌモシリ」を改修し、恵庭のアイヌ文化の特徴である考古資料の刀や刀子を数多く展示するなど、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られた。さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。しかしながらアイヌ政策推進交付金事業についてはまだ始めてから日が浅いことから市民全体にアイヌ文化への関心が広く浸透しているとは言い難い。また、恵庭アイヌ協会員の減少や経済的理由により文化伝承活動に専念することができないなど、アイヌ文化等の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が課題となっている。シラッチセカムイノミとカムイノミ・イチャルバは運営の多くに近隣アイヌ協会の支援を受けて開催しているが、いずれも継続が困難になると予想されている。

このことから、継続してアイヌ文化について学ぶ機会を提供し、市民全員が先住民族アイヌの文化に愛着や誇り、アイデンティティーを感じ、アイヌやサイレントアイヌの人々が自らのルーツに誇りを持って生きられる社会を実現することが重要である。

#### \*アイヌ関連団体

- ・恵庭アイヌ協会（設立：昭和50年6月、代表者：会長 藤原 顕達氏、  
会員数：5世帯）

#### \*アイヌ文化等関連施設

- ・恵庭市郷土資料館

所在：恵庭市南島松157-2

現況：平成2年11月設立。アイヌ関連の考古・民俗資料の展示。アイヌ関連の企画展や講座等の開催。

#### (2) アイヌ施策推進地域計画の目標

アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域に存在するアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活性化させ、魅力ある地域社会の形成を目標とする。

事業期間：令和8年度～令和8年度  
事業費：280千円

(3) コミュニティ活動支援事業

事業内容：4-4と同じ  
事業期間：令和6年度～令和10年度  
事業費：8,637千円

7 アイヌ施策推進地域計画が法第10条第9項各号に掲げる基準に適合すると認められる理由

(1) 「アイヌ施策の意義及び目標」との適合性（第1号基準）

「アイヌ施策の意義及び目標」に適合したアイヌ施策の推進を図るために必要な事業の記載（第2号基準）

■4-1に記載する事業は、恵庭のアイヌ民族の精神文化、伝統儀式を後世に伝え残すとともに、地域のアイヌ民族の伝統文化の継承と先住民族である自負と尊厳の形成に寄与する。伝統儀式に参列した一般の方々などがアイヌ民族の伝統文化を理解し、尊重する共生社会を築くことに役立つことが期待される。

■4-4に記載する事業は、道内のアイヌ文化を学び、海外の多文化共生社会づくりの先進事例を視察し、活動環境の改善を図ることによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図るものであり、多文化共生社会の実現に寄与するものである。

(2) 反社会的勢力やその関係者（以下「反社会的勢力等」という。）の関与の可能性（第2号基準）

全ての事業については、恵庭市の事業として実施するものであり、反社会的勢力等の関与はない。また全ての事業は、本市が定める入札資格を満たし、かつ他の事業実績を有する事業者への委託を想定しているが、反社会的勢力等の関与は認められない。

(3) 円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること（第3号基準）

■事業の実施主体の特定

6で記載の事業については、事業担当部署である恵庭市郷土資料館が事業者を特定もしくは想定しており、その妥当性を検証している。

■事業実施スケジュールの明確性

6で添付の工程表は、事業担当部署である恵庭市郷土資料館が特定もしくは想定している事業者からの聞き取りを踏まえて作成したものであり、その妥当性を検証している。

■地域住民の意見聴取

### (3) 数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度	40名
令和9年度	40名
令和10年度	40名

#### 4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項

##### 4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

■アイヌ文化保存・継承環境整備事業・・・恵庭アイヌ協会が行う「カムイノミ・イチャルパ（神への祈りと先祖供養の儀式）」などのアイヌ民族伝統儀式で使用する先祖供養等儀式用具を作製する。

##### 4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。また有識者委員会を定期的で開催し、事業の検討や評価などを行う。

■アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などのアイヌ文化関連施設に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

■ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。

#### 5 計画期間

令和6年4月1日から令和11年3月31日まで

#### 6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費

##### (1) 文化振興事業

事業内容：4-1と同じ

計画策定に当たり、恵庭市アイヌ協会から意見を聞いているが、反対意見はなかった。

8 目標の達成状況に係る評価に関する事項

(1) 目標の達成状況にかかる評価の手法

3に記載するKPIである、全事業の総参加人数について公表する。また有識者委員会により、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。

(2) 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

- ・評価の時期：目標の達成状況については、令和10年度末時点で最終評価を行うほか、令和8年度末時点で中間評価を行う。KPIの達成状況の検証は、計画期間における毎年度3月までに行う。
- ・評価を行う内容：数値目標の達成状況について、毎年度5月に有識者委員会による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(3) 目標の達成状況に係る評価結果の公表の手法

目標の達成状況に係る評価結果については、市公式ウェブサイトにて公表する。

9 法第10条第4項に規定する事業の実施により採取する林産物の種類、当該林産物を採取する場所、当該事業の必要性その他の内閣総理大臣が必要と認める事項

\*記載事項なし

10 内水面さけ採捕事業を実施する期間、当該内水面さけ採捕事業に使用する漁具その他の内閣総理大臣が必要と認める事項

\*記載事項なし

## 令和8年度アイヌ政策推進交付金事業について

### 1. 事業計画

●事業費 2,298千円（令和7年度実績1,218千円より1,080千円の増）

うちアイヌ政策推進交付金の額 1,838千円(令和7年度実績973千円より865千円の増)

- ・文化振興事業（アイヌ文化保存・継承環境整備事業） ■■■千円
- ・コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業、アイヌ文化学習見学会事業、ムックリ製作体験事業） ■■■千円

### 2. 令和8年度事業の概要

(1) アイヌ文化保存・継承環境整備事業・・・恵庭アイヌ協会が儀式で利用するトゥキ（坏）12個、トゥキ台（坏を載せる台）12個、オッチケ（膳）3個、エトヌプ（儀式で酒を注ぐ片口）1個の作製を委託する。詳細は別紙参照。

(2) アイヌ文化マスター育成事業・・・アイヌ文化を学ぶ意欲がある市内に在住する小学4年生～高校3年生6名を公募し、全6回の講座を実施する。期間は令和8年7月から12月までとし、アイヌ文化の講座や体験、余市町のアイヌ文化関連施設などの見学を行う。また、1泊2日で釧路市阿寒等で研修を行い、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。詳細は別紙参照。

(3) アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで新ひだか町のアイヌ文化関連施設（新ひだか町博物館、史跡シベチャリチャン跡等）に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。詳細は別紙参照。

(4) ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者にムックリ製作体験をしてもらう。ムックリ製作を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会の実現を目指す。恵庭市郷土資料館主催のカリンバまつりと同日に実施する。詳細は別紙参照。

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	恵庭市アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	アイヌ文化を保存・継承・振興するとともに、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深めることにより、アイヌ民族の誇りが尊重される多文化共生社会を日指す。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>■アイヌ文化保存・継承環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体 北海道恵庭市</li> <li>○事業実施場所 委託先</li> <li>○事業実施期間 令和8年4月～令和9年3月</li> <li>○事業の内容と考え方 恵庭アイヌ協会は現在坏等の儀式用具を所有していない。恵庭アイヌ協会が主催する「カムイノミ・イチャルバ(神への祈りと先祖供養の儀式)」などのアイヌ民族伝統儀式で使用する坏・坏台・膳・片口からなる先祖供養等儀式用具を作製し使用することで、アイヌ民族の伝統文化の継承を図る。</li> </ul> <p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>■アイヌ文化マスター育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体 北海道恵庭市</li> <li>○事業の実施場所 恵庭市郷土資料館等</li> <li>○事業の実施期間 令和8年4月～令和9年3月</li> <li>○事業の内容と考え方 市内在住の児童生徒6名が恵庭市や余市町などでアイヌ文化を学ぶ。また北海道でもアイヌ文化が強く根付いている釧路市阿寒へ1泊2日で派遣し、アイヌ文化への正しい理解を深め、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者にレポートの提出を求めるとともに報告会を開催する。</li> </ul> <p>■アイヌ文化学習見学会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体 北海道恵庭市</li> <li>○事業の実施場所 旭川市博物館等</li> <li>○事業の実施期間 令和8年4月～令和9年3月</li> <li>○事業の内容と考え方 公募した参加者をバスで旭川市博物館等に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。</li> </ul> <p>■ムックリ製作体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体 北海道恵庭市</li> <li>○事業実施場所 恵庭市郷土資料館</li> <li>○事業実施期間 令和8年7月</li> <li>○事業の内容と考え方 「カリンバまつり」の中で、公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。</li> </ul>

5 アイヌ施策推進地域計画における記載	<p>4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業  <b>■アイヌ文化保存・継承環境整備事業</b>・・・恵庭アイヌ協会が行う「カムイノミ・イチャルパ（神への祈りと先祖供養の儀式）」などのアイヌ民族伝統儀式で使用する先祖供養等儀式用具を作製する。</p> <p>4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業  <b>■アイヌ文化マスター育成事業</b>・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。  <b>■アイヌ文化学習見学会事業</b>・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などに引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。  <b>■ムックリ製作体験事業</b>・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。</p>
6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	<p>(1) 文化振興事業  <b>■アイヌ文化保存・継承環境整備事業</b>・・・恵庭アイヌ協会が「カムイノミ・イチャルパ（神への祈りと先祖供養の儀式）」などのアイヌ民族伝統儀式において今回製作する坏等の伝統的な儀式用具を使用することで、アイヌ民族の精神文化、伝統儀式を後世に伝え残すとともに、地域のアイヌ民族の伝統文化の継承と先住民である自負と尊厳の形成に寄与すると考えられる。また、伝統儀式に参列した一般の方々などがアイヌ民族の伝統文化を理解し、尊重する共生社会を築くことに役立つことが期待される。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業  <b>■アイヌ文化マスター育成事業</b>・・・市内の児童生徒がアイヌ文化や他国の先住民文化に触れる機会を提供しアイヌ文化や多文化共生、様々な先住民尊重に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。  <b>■アイヌ文化学習見学会事業</b>・・・広く小学生から一般にも正しいアイヌ文化に触れる機会を提供しアイヌ文化や多文化共生に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。  <b>■ムックリ製作体験事業</b>・・・広く小学生から一般にも、ムックリを通じてアイヌ文化と触れあう機会を提供しアイヌ文化や多文化共生に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。</p>
(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>(3) コミュニティ活動支援事業  <b>■全事業の総参加人数</b>  (中間目標) 令和8年度 40名  (最終目標) 令和10年度 40名  (現状値) 令和7年度 103名 (うちアイヌ文化講演会を除いた人数は48名)</p>
(3) 成果目標の確認方法	KPIである全事業の総参加人数は実績値を公表し、有識者委員会で目標の達成状況について検証する。
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等	恵庭市においては、市の名称である「恵庭」、市内の中心部を流れる「漁（いざり）」川などアイヌ語由来の地名が数多く残されている。明治後期から大正時代にかけては旧カリンバ川中流域の恵庭・千歳地区にまたがって「カマカコタン」があり、歴史的にアイヌ文化等に関わりが深い。発掘調査でも市内各地の遺跡からアイヌが暮らして

<p>の現状及び課題</p>	<p>いた痕跡が確認されている。中でも旧カリンバ川上流右岸の約1kmの範囲からは推定300～500年前の建物跡が100軒以上見つかり、「カリンバコタン」とも呼ぶべき集落が連続と長期間に渡り営まれたと考えられる。しかし、残念なことに伝承の記録等は残っていない。チャシ跡に関しては、令和5年時点で茂漁チャシ跡、島松Bチャシ跡、島松Cチャシ跡、カリンバチャシ跡の4か所が確認されている。カリンバチャシ跡は部分的に発掘調査が行われており、アイヌ文化期の溝状遺構と柱穴列が確認されている。恵庭市西側の山岳地帯にはシラッチセ（岩屋）と呼ばれるアイヌが熊猟をした際の拠点が3か所現存する。本流の岩屋、二股の岩屋、金山沢の岩屋で、いずれも溶結凝灰岩が南側にひさし状にせり出した地形で、日当たりが良く雨や雪を避けられる場所を利用している。アイヌはここに設置した仮小屋に寝泊まりし、冬眠明けの熊を狙って猟を行った。捕獲した熊は山で解体し、頭骨を岩屋の祭壇に祀ってオブニレ（熊送り）を行った。現存する岩屋が使われた記録が残るのは昭和時代以降だが、かなり昔から岩屋を拠点とする熊猟がアイヌにより行われていたと考えられる。</p> <p>恵庭市には昭和50年に恵庭アイヌ協会（旧社団法人北海道ウタリ協会恵庭支部）が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図ってきた。恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和7年12月現在5世帯と減少が著しい。またアイヌにルーツを持ちながらも自ら「アイヌ民族」を表明しない人々や自覚しない人々（サイレントアイヌ）もいるものと推察される。このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ（岩屋での祈りの儀式）を開催し、また令和5年からは恵庭市埋蔵文化財整理室でカムイノミ・イチャルパを実施し、アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。</p> <p>恵庭市郷土資料館では、平成28年に企画展「モノから見たアイヌ文化」を開催し、翌29年には（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構（当時）の助成金を利用して常設展示室第3部「アイヌモシリ」を改修し、恵庭のアイヌ文化の特徴である考古資料の刀や刀子を数多く展示するなど、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られた。さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。しかしながらアイヌ政策推進交付金事業についてはまだ始めてから日が浅いことから市民全体にアイヌ文化への関心が広く浸透しているとは言いがたい。また、恵庭アイヌ協会員の減少や経済的理由により文化伝承活動に専念することができないなど、アイヌ文化等の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が課題となっている。シラッチセカムイノミとカムイノミ・イチャルパは運営の多くに近隣アイヌ協会の支援を受けて開催しているが、いずれも継承が困難になると予想されている。</p> <p>このことから、継続してアイヌ文化について学ぶ機会を提供し、市民全員が先住民族アイヌの文化に愛着や誇り、アイデンティティーを感じ、アイヌやサイレントアイヌの人々が自らのルーツに誇りを持って生きられる社会を実現することが重要である。</p>
<p>(2) 施設等の管理運営体制</p>	<p>恵庭市郷土資料館は恵庭市が管理している。 恵庭市埋蔵文化財整理室は恵庭市郷土資料館が管理している</p>
<p>(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制</p>	<p>恵庭アイヌ協会とは定期的に意見交換を行っている。</p>

## 「アイヌ文化保存・継承環境整備事業」企画書

### ●事業概要

恵庭アイヌ協会は毎年7月第一週の日曜日に盤尻で「シラッチセ・カムイノミ（岩屋における神への祈りの儀式）」、毎年10月第一週の日曜日には恵庭市埋蔵文化財整理室で「カムイノミ・イチャルパ（神への祈りと先祖供養の儀式）」というアイヌ民族伝統儀式を主催しており、恵庭市や恵庭市教育委員会もそれを支援している。特に「カムイノミ・イチャルパ」は恵庭市教育委員会等による発掘調査で出土したアイヌ遺骨等を慰霊するもので、アイヌ遺骨等地域返還において国から年に一度の実施を義務付けられているものである。アイヌ民族伝統儀式においてはお酒を入れる容器やそれを載せるお膳等の用具が必要であるが、恵庭アイヌ協会は近隣のアイヌ協会からそれらの用具を借りて実施してきた。だが、儀式の日程が重なるなど近隣のアイヌ協会から用具を借用するのが困難になってきており、恵庭アイヌ協会は自前の用具を希望している。上記の事情を鑑み、アイヌ政策推進交付金を利用したの先祖供養等儀式用具の作製を委託するものである。

### ●作製用具

- (1) トウキ（坏） 12個
- (2) トウキ台（坏を載せる台） 12個
- (3) オッチケ（膳） 3個
- (4) エトスプ（儀式で酒を注ぐ片口） 1個

### ●作製者

- (1) 恵庭アイヌ協会が作製者としてふさわしいと認めるもの
- (2) アイヌ民族伝統儀式用具の作製実績があるもの
- (3) アイヌ民族が望ましい

### ●費用

・委託費 ■■■■■ 円

計 ■■■■■ 円

## 「アイヌ文化マスター育成事業」企画書

- 内容、タイトル 講座・体験等、「アイヌ文化マスター育成事業」
- 目的 アイヌ文化への理解を深め、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 市内に在住、または市内の学校に通うアイヌ文化に関心がある  
小学4年生～高校3年生の計6名（公募）  
\*オブザーバーとして恵庭アイヌ協会長が参加（例年参加されている）、郷土資料館外実施の担当（引率）は資料館学芸員2名を想定

### 第1回 7月26日（日）

- 8:55 恵庭市郷土資料館研修室集合
- 9:00～9:50 講座①「アイヌ文化の基礎知識」
- 9:50～10:00 休憩
- 10:00～10:50 講座②「恵庭のアイヌ文化」  
講座：「アイヌ文化の基礎知識」、「恵庭のアイヌ文化」  
場所：恵庭市郷土資料館  
講師：講座①国立アイヌ民族博物館副館長 内田氏  
講座②恵庭市郷土資料館学芸員 長町  
担当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町

### 第2回 8月30日（日）

- 8:45 恵庭市郷土資料館研修室集合
- 8:50～10:45 恵庭市郷土資料館発、移動（恵庭IC－日高富川IC）
- 10:45～15:00 新ひだか町博物館着、見学、体験
- 15:00～16:55 新ひだか町博物館発、移動（日高富川IC－恵庭IC）
- 16:55 恵庭市郷土資料館着、解散
- 場所：新ひだか町博物館外
- 担当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町、他1名

第3回 9月27日(日)

9:00～9:50 講座①「アイヌの言葉と唄を学ぶ」

9:50～10:00 休憩

10:00～11:50 講座②「ムックリ製作・演奏体験」

講座：「アイヌの言葉と唄を学ぶ」、「ムックリ製作・演奏体験」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：講座①アイヌ語話者 池田氏（恵庭市在住）

講座②恵庭アイヌ協会会長 藤原氏

担当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町

第4回 10月24・25日(土・日)

●10月24日(土)

9:00～12:40 恵庭市郷土資料館出発(ジャンボタクシー)

12:40～13:20 陸別町道の駅着、昼食

13:20～13:25 史跡ユクエピラチャシ跡へ移動

13:25～14:15 チャシ跡見学

14:15～14:20 陸別町公民館へ移動

14:20～14:50 公民館でチャシ跡関連展示見学

14:50～15:35 津別町ツペトウンチャシ跡へ移動

15:35～16:05 チャシ跡見学

16:05～16:50 阿寒湖へ移動

16:50～19:15 ホテル着、休憩・夕食等

19:15～19:25 ホテルから阿寒湖畔へ徒歩移動

19:30～20:30 阿寒の森ナイトウォーク「カムイルミナ」体験

21:00～21:30 シアターにて「阿寒ユーカラ ロストカムイ」観覧体験

21:30～21:40 阿寒湖アイヌシアターからホテルへ徒歩移動

21:40 ホテル着、ロビーで解散

●10月25日(日)

9:10 朝食後、ホテルロビーに集合

9:15～9:25 ホテルから阿寒湖アイヌシアターへ移動

9:30～11:55 阿寒アイヌ文化ガイド Anytime,ainutime! 湖の時間

12:00～13:00 食の時間

13:00～15:00 幕別アイヌ拠点空間へ移動(ジャンボタクシー)

15:00～16:00 幕別アイヌ空間拠点で見学

16:00～18:30 資料館へ移動、到着後解散（ジャンボタクシー）

見学等：「釧路市阿寒・幕別町等で学ぶアイヌ文化」

場 所：史跡ユクエピラチャシ跡、幕別アイヌ空間拠点等

講 師：各施設の専門家

担 当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町、他1名

第5回 11月29日（日）

8:50 恵庭市郷土資料館研修室集合

9:00～10:25 移動

10:30～13:00 余市水産博物館見学、昼食

13:10～14:30 旧下ヨイチ運上屋見学

14:40～15:40 フゴッベ洞窟見学

15:50～16:50 大川遺跡等町内のアイヌ文化見学

16:50～18:15 移動

18:15 恵庭市郷土資料館着、解散

見学等：「余市町のアイヌ文化」

場 所：余市水産博物館、旧下ヨイチ運上屋、フゴッベ洞窟、大川遺跡等

講 師：各施設の専門家

担 当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町、他1名

第6回 12月20日（日）9:00～12:00

9:00～ 9:50 講座①「イノウ製作体験・アイヌ民族について」

9:50～10:00 休憩

10:00～10:50 講座②「まとめ・報告会」

体験：「講話とイノウ製作、報告会」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：講座①恵庭アイヌ協会会長 藤原氏

講座②恵庭市郷土資料館学芸員 長町

担当：恵庭市郷土資料館学芸員 長町

●費用

共通 保険料 ■■■■■ 円  
消耗品 ■■■■■ 円  
小計 ■■■■■ 円

事業委託料（内訳：第2, 4, 5回、アイヌ文化学習見学会事業）

委託料 ■■■■■ 円（内 ■■■■■ 円はアイヌ文化学習見学会事業分）  
（アイヌ文化マスター育成事業分は ■■■■■ 円）

委員会 委員会報酬費 ■■■■■ 円  
（■■■■ 円×3人×2回）  
委員会交通費 ■■■■■ 円  
（■■■■ 円×3人×2回）  
小計 ■■■■■ 円

第1回 講座①  
講師謝金 ■■■■■ 円  
旅費（島松一資料館往復） ■■■■■ 円  
小計 ■■■■■ 円

\* 講座②については、恵庭市郷土資料館職員が講師となるため、謝金は講座①のみ。

第2回 事業委託料に含まれている

第3回 講座①  
講師謝金 ■■■■■ 円  
講師旅費（恵み野一資料館往復） ■■■■■ 円  
講座②  
講師謝金 ■■■■■ 円  
講師旅費（恵み野一資料館往復） ■■■■■ 円  
小計 ■■■■■ 円

第4回 事業委託料に含まれている  
職員日当 ■■■■■ 円（■■■■ 円×2日×2人）

第5回 事業委託料に含まれている

第6回 講座①

講師謝金（イノウ材料代、道具代込み） ■■■■■ 円

講師旅費（恵み野一資料館往復） ■■■■■ 円

小計 ■■■■■ 円

第1回～6回の合計 ■■■■■ 円

・ 共通+事業委託料（全体）+委員会+第1回～6回の合計 ■■■■■ 円

・ 共通+事業委託料（アイヌ文化マスター育成事行のみ）+委員会+第1回～6回の合計  
■■■■■ 円

## 「アイヌ文化学習見学会」企画書

- 内容、タイトル 見学・体験等、「アイヌ文化学習見学会事業」
- 日程 10月3日(土)
- 目的 アイヌ文化への理解を深め、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 アイヌ文化に関心がある方  
小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 参加費 入館料等実費
- 定員 40名 \*その他引率2名
- 行先

恵庭市役所駐車場	8:50
出発	9:00
移動	9:00~11:00
新ひだか町博物館や史跡シベチャリチャシ跡	11:00~15:00
移動	15:00~17:00
恵庭市役所前到着・解散	17:00
- 費用  
委託料 XXXXXXXXXX円

## ムックリ製作体験事業

- 内容、タイトル 講座・体験等、「ムックリ製作体験」
- 目的 ムックリ製作体験を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 小学生以上 15 名
- 日程 7 月 26 日
- 場所 恵庭市郷土資料館
- 参加費 100 円
- 講師料 ■■■■■ 円